

高等部第*学年 国語科学習指導案

日時	令和4年**月**日（*）（9：40～10：30）		場所	高等部*年*組教室
指導者	國府田 雅織（T1） ** **（T2）			
単元名	「言葉について学習しよう」			
本単元の目標	・生活に身近な慣用句やことわざを知り、使うことにより様々な表現に親しむことができる。 （知識及び技能）〈中学部2段階〉 ・慣用句やことわざが使われた話を聞きながら、分からないときは聞き返して、内容の大体を捉えることができる。 （思考力、判断力、表現力等）〈中学部2段階〉 ・言葉がもつよさに気付くとともに、いろいろな図書に親しみ、国語を大切に。思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等）〈中学部2段階〉			
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	・生活に身近な慣用句やことわざを知り、使うことにより様々な表現に親しんでいる。	・慣用句やことわざが使われた話を聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないときは聞き返したりして、内容の大体を捉えている。	・言葉がもつよさに気付くとともに、いろいろな図書に親しみ、国語を大切に。思いや考えを伝え合おうとしている。	
単元設定の理由	本グループは、高等部*年の男子4名、女子2名の計6名で構成されている。6名とも言葉での説明や指示をある程度理解して学習に取り組むことができる。「話すこと」に関しては、好きなことや得意なことであれば、友達や教師と話をすることが好きで、自分から話しかけたり、会話を楽しんだりすることができる。しかし、語彙力が少ないため、同じ内容であったり、自分の伝えたいことがうまく伝わらずに会話をあきらめてしまったりすることがある。「聞くこと」に関しては、1学期に『メモを取ろう』を行い、5文程度の簡単な文章であれば、話の大体を理解したり、メモを取ったりすることができるようになった。日常生活では、言葉の意味を知らないことが多く、言葉だけではなく、イラストや文字カードなどで丁寧に詳しく説明する必要がある。 本単元は、『特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）』に定められた国語科の内容のうち、中学部2段階ウ（イ）の「生活に身近なことわざなどを知り、使うことにより様々な表現に親しむこと。」及び中学部2段階A聞くこと・話すことアの「身近な人の話や放送などを聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないときは聞き返したりして、内容の大体を捉えること。」に基づき、よく使われる慣用句やことわざの意味と使い方を知ることによって、様々な言い回しに関心をもつとともに、生活の中で用いようとすることで、語彙力を増やし、言語生活を豊かにしていくことをねらいとしている。 指導にあたっては、慣用句やことわざをイラストと組み合わせで分かりやすくしたり、実際に使われる場面を提示したりして、日常生活の場面で少しずつ結び付けられるようにしていきたい。本時の学習では、よく使われる慣用句の意味や使い方を調べ、どのような場面で使うかを考えられるようにしていく。慣用句の意味から生徒自身が自分に当てはまる内容を考えることで、生活の中でその様な体験をした時に、慣用句が思い出すことができるようにしていきたい。1次の「慣用句」で様々な慣用句の意味を知り、日常生活の中で場面に合った慣用句を考える学習をすることで、2次の「ことわざ」でも様々なことわざを日常生活の中で考えられるように繋げていきたい。日本で昔から使われている様々な言葉の意味や使い方を学習することで、語彙力を増やし、様々な人の話を聞いて理解したり、自分の気持ちや考えを伝えるための表現力を身に付けたりすることができる。そして、卒業後の生活において、たくさんの人と会話を通じて良好な関係を築いていけるようになってほしい。			
単元の指導計画 （14時間扱い）	次	時	学習内容・活動	評価規準・評価方法
	1 「慣用句」	1・2 「慣用句を知ろう」	慣用句の意味を調べたり、調べたことを発表したりする。	辞書を使って、慣用句の意味を調べたり、発表したりしようとしている。 （主体的に学習に取り組む態度）〔発表・ワークシート〕

本時は 第5時		3・4・ ⑤ 「慣用句を 使おう」 (本時)	生活の中で、慣用句を使う場面 や使い方を考えてワークシ ートにまとめる。	慣用句の意味に当てはまる体験を考えたり、伝え たりしている。(知識・技能)〔観察・ワークシート〕
		6・7 「クイズを しよう」	慣用句カードを作ったり、慣用 句カードでクイズを出し合っ たりする。	慣用句やその意味、使い方を聞いて、質問に答え ている。(思考・判断・表現)〔観察・ワークシート〕
	2 「ことわざ」	8・9 「ことわざ を知ろう」	ことわざの意味を調べたり、調 べたことを発表したりする。	辞書を使って、ことわざの意味を調べたり、発表 したりしようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)〔発表・ワークシ ート〕
		10・11・12 「ことわざ を使おう」	生活の中で、ことわざを使う場 面や使い方を考えてワークシ ートにまとめる。	ことわざの意味に当てはまる体験を考えたり、伝 えたりしている。(知識・技能)〔観察・ワークシート〕
		13・14 「好きなこ とわざを考 えよう」	好きなことわざを選び、意味や 好きな理由を発表することが できる。	自分で選んだことわざの意味や好きな理由を伝え ようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)〔発表・ワークシ ート〕

〔本時の指導〕

1 本時の目標

- ・慣用句の意味に当てはまる体験を考え、伝えることができる。 【知識及び技能】

2 生徒の実態及び個別目標

①聞く力

- ◎5行文程度の簡単な内容であれば、聞いて理解することができる。
- 3行文程度の簡単な内容であれば、聞いて理解することができる。
- △話の内容を簡単な言葉にして、イラストや文字と一緒に提示すると、聞いて理解することができる。

②話す力

- ◎相手に伝わるように、話す順番を考えて簡単な話をするすることができる。
- 相手に伝えたい内容を考えて、簡単な話をするすることができる。
- △教師とやりとりをしながら、簡単な話をするすることができる。

③言葉の使い方

- ◎身近な大人や友だちに伝わる言葉を使って、書いたり話したりすることができる。
- 簡単な言葉を使って、書いたり話したりすることができる。
- △教師と一緒に簡単な言葉を考えながら、書いたり話したりすることができる。

生徒 学年 (性別)	生徒の実態			個別目標	自立活動の 目標
	①聞く力	②話す力	③言葉の 使い方		
A *年 (*)	◎	○	◎	慣用句の意味に当てはまる体験を考え、伝えることができる。 (知識及び技能)	
B *年 (*)	△	○	△	慣用句の意味に当てはまる体験をワークシートにまとめて、伝えることができる。(知識及び技能)	場にあった適切な言葉遣いを理解して実践することができる。
	視覚的な支援をすれば、理解することができる。		言葉の意味を伝えて一緒に考えると、話すことができる。		
C *年 (*)	○	△	○	慣用句の例文やイラストから自分の体験を考えて、ワークシートに記入することができる。 (知識及び技能)	
	気持ちが安定していれば、理解することができる。	紙にまとめてから、話することができる。			
D *年 (*)	△	○	△	慣用句の意味に当てはまる体験を教師と一緒に考え、伝えることができる。 (知識及び技能)	
	視覚的な支援をすれば、理解することができる。		言葉の意味を伝えて一緒に考えると、話すことができる。		
E *年 (*)	◎	○	◎	慣用句の意味に当てはまる体験を考え、伝えることができる。 (知識及び技能)	
F *年 (*)	○	○	○	慣用句の意味に当てはまる体験を例文やイラストから考え、ワークシートに記入することができる。 (知識及び技能)	

3 展開

形態 時間 (分)	主な学習活動・内容 (必要に応じて配置図等を入れる)	指導の手立て（各Tの役割等）※評価は□で囲む
全 (5)	1 始めの挨拶をする。	・ T 1 は、挨拶する生徒に「挨拶をお願いします。」と言葉掛けを行う。
	2 本時の学習内容・目標を確認する。 (1) 前時の確認をする。 (2) 学習内容を確認する。 (3) 本時の目標を確認する。	・ T 1 は、電子黒板を操作して、前時で学習した慣用句の意味や使い方を確認できるようにする。 ・ T 2 は、B、C、D にプリントを見て前時で学習した内容が確認できるように言葉掛けをする。 ・ T 1 は、本時の見通しがもてるように、学習内容と本時の目標をホワイトボードに書いたり、貼ったりする。
全 (35)	3 慣用句で自分の体験を考えよう。 ①意味を確認しよう ②自分の体験を考えて伝えよう ・ 体験を考える ・ グループ内発表 ・ 代表発表	・ 慣用句が使われる場面の二つの動画を見ることで、慣用句を身近に感じ、生活の中での使い方を考えやすいようにする。 ・ 動画に出てきた二つの慣用句と意味を全体で確認する。 ・ T 1 は、以前行った意味調べのプリントを見て、慣用句や意味を確認できるように言葉掛けを行う。 ・ T 2 は、B、C、D、F がプリントを見て慣用句や意味が確認できているか、机上を見ながら言葉かけをする。 ・ T 1 は、慣用句や意味を確認できたことを称賛し、次に自分の体験を考える活動に繋げることができるようにする。 ・ T 1 は、机、椅子を移動して、2 グループに分かれるように指示をする。 ・ 活動時間をホワイトボードに提示することで、見通しをもって活動できるようにする。 ・ タブレット端末のワークシートに慣用句の意味に当てはまる自分の体験を考えるように伝える。 ・ T 1、T 2 は、机間巡視をしながら、タブレット端末の操作ができていないかを確認する。 ・ B、C、D、F が自分の体験を考えることが難しいときには、例文やイラストを提示したり、一緒に考えたりできるようにする。 ・ C が授業に参加することが難しいときには、様子を見ながら言葉かけをしたり、経験を選択式で答えることができるワークシートに変更したりして、授業に参加できるようにする。 ・ T 1、T 2 は、机間巡視をしながら、書いている内容を確認したり、称賛したりして、自信をもって発表できるようにする。 ・ 各グループでワークシートの発表を行う。発表する順番と最後に発表する代表者を決めて行えるようにする。 ・ 発表者は、ワークシートを見ながら、慣用句の意味に当て

全 (10)		はまる体験を発表する。 ・発表が終わったら、同じグループの生徒は拍手をするように伝える。
		A 慣用句の意味に当てはまる体験を考え、伝えている。 (知識・技能)〔観察〕、〔ワークシート〕
		B 慣用句の意味に当てはまる体験をワークシートにまとめて、伝えている。 (知識・技能)〔観察〕、〔ワークシート〕
		C 慣用句の例文やイラストから自分の体験を考えて、ワークシートに記入している。 (知識・技能)〔観察〕、〔ワークシート〕
		D 慣用句の意味に当てはまる体験を教師と一緒に考え、伝えている。(知識・技能)〔観察〕、〔ワークシート〕
		E 慣用句の意味に当てはまる体験を考え、伝えている。 (知識・技能)〔観察〕、〔ワークシート〕
		F 慣用句の意味に当てはまる体験を例文やイラストから考え、伝えている。 (知識・技能)〔観察〕、〔ワークシート〕
		慣用句の意味に当てはまる体験を考え、伝えている。 (知識・技能)〔観察〕、〔ワークシート〕
		・T 1 は、全員にワークシートのデータを教師のタブレット端末に送信するように伝え、全員分のデータが送られてきたかを確認する。 ・T 1、T 2 は、A、B、D、F がタブレット端末の操作をすることが難しいときには、一緒に操作できるようにする。 ・各グループの代表の生徒は、電子黒板を使用して発表できるようにする。 ・T 1 は、各グループで全員が発表できたこと、全体で発表できた代表の生徒を称賛する。
		・全員のワークシートデータを電子黒板に映して、学習内容を振り返ることができるようにする。 ・まとめの文を穴埋め方式にして、生徒と確認しながら大切なことを伝えることができるようにする。 ・T 1、T 2 は、生徒の考えに賛同したり、称賛したりして、生徒が自分たちの考えたことに自信がもつことができるようにする。
	4	まとめをする。
	5	次時の確認をする。
	6	終わりの挨拶をする。 ・次時には、慣用句の意味、使い方を書いたカードを作ること伝える。 ・T 1 は、挨拶する生徒に「挨拶をお願いします。」と言葉掛けを行う。

【板書計画】

ホワイトボード

＊＊月 ＊＊日 ＊曜日

国語 慣用句を使う

今日の学習

① 意味を確認しよう

② 慣用句で自分の体験を考えて伝えよう

目標

慣用句の意味に合う自分の体験を考え、
友だちに伝えよう。

① 意味を確認しよう

慣用句

「寝食を忘れる」

意味

「ねることも食べることも忘れるほど、
物事に熱中して取り組む」

慣用句

「首を長くする」

意味

「今か今かと待ちこがれる」

まとめ

慣用句を使うと、簡単に自分の気持ちや状況を伝えられる。

・慣用句が使われる場面を考えて過ごしてみよう。

配置図〈全体〉

〈グループ〉

